

いとう はるか
伊藤 春花 (体育専門学群 3年)



突然ですが、あなたは今の学群・学類になぜ入学しましたか？筑波大学進学を決めた高校時代のあの頃、自分は何を考えていたでしょうか。振り返ると、自分の得意な科目に合わせて決めた、趣味や好きなことに合わせて決めた、という理由は多いと思います。では、入学した結果、納得のいく大学生活を送ることはできていますか？思い描いた生活と違う。こんな風に感じたことはありませんか？高校時代のあの頃、パンフレットや年に数回のオープンキャンパスだけで進路選択をしなければならなかった私たちには、限られた選択肢しかなかったでしょう。

「これがしたい」と「これしかできない」

限られた選択肢から、自分の行けそうな学校を選ぶ。このような中高生の現状を打破しようと活動しているのが、私たちTeens Caféです。活動のメインであるワークショップや対談を繰り返すうちに、中高生の口から出てくる「志望校は決まっているけど、どの学部に行けばいいかわからない。」「この教科が得意だから、この教科しか取り柄がないからこの学部に行く。」という言葉。否が応でも勉強しなければ大学にすら行けない現代の状況の中で、勉強の点数や教科との相性という判断基準で志望校・志望学部を決定するというのも無理はありません。教育現場は、どうしても生徒に受験で戦える「知識」を教えることで手一杯になってしまいます。ですが、このような進路決定の仕方の中に、「未来」という言葉はあるのでしょうか。「これしかできない」から、この学部に行く、という進路選択では、その能力が通用しなくなった時の対処の仕方が分からない、他の潜在的能力に気づくことができない、という状態に陥りはしないのでしょうか。

そこで私たちは、中高生が「今」を捉え、「未来」を考えるきっかけづくりをしています。受験勉強に追われる中高生に、将来のキャリアまで今のうちから考えろ、というわけではありません。自分より一歩先を歩く先輩と話をすることで、自分とは違う生き方に気づくこと。この気づきがあってこそ、受験競争に勝つことが目的ではなく、「これがしたい」から「この進路選択にする」という受験のその先を見据えた進路選択ができるのだと考えます。

色々な生き方を知ったからこそ、自分を肯定できるようになった。

これは、対談を重ねる中である高校生が言ってくれた言葉です。机を付け、大学生1人が自分の進路

選択や生き方について語っているのを、高校生が真剣な目をして聞いている。毎回の活動でよく目にする光景ですが、この日は浪人経験のある先輩が参加していた日でした。「浪人経験は無駄ではない。本当にしたいことをするために、行きたい大学を妥協しなくなかった。」と語る先輩の話聞いて、「浪人は恥ずかしいことじゃない、浪人という選択もありなんだ。」こう思えたといえます。

また筑波大学の新生向けに行ったイベントでは、「生死を彷徨った経験があるからこそ、本当にやりたいことを妥協しない人生を送れるようになった。」と生まれつき難病を抱える先輩が語っていました。この話を聞いて、「大学生活を無駄にしないように、一度きりの人生、存分に楽しみたい。」。新生は真剣な顔で語ってくれました。

中高生と大学生・社会人が対談する中で、中高生はさまざまな価値観に出会うことができます。

失敗した話、失敗から立ち直った話、人生観が変わった話、大学でしかできない学問の話。選択の連続の人生の中で、先輩たち一人ひとりの「生き方」を形づくる思いを知ることは、中高生にとって新たな価値観との出会いになります。これが正解という言い方をするのではなく、自分の体験を語り合い生き方について一緒に考えること。そして、中高生が一人でも多く「したいこと」をするための最初の一步として進路を決定できれば、そのエネルギーは周りの中高生にも広がっていくでしょう。

現在、竹園高校と月1回の交流会、また不定期でBiviつくばで中高生向けのイベント開催を行っています。活動のメインはその交流会と、交流会に向けてのミーティングです。中高生と一緒に将来を考えながら私たち大学生も日々成長できるよう、これからも活動を続けていきたいと思えます。

Twitter : @TeensCafe_TKB



竹園高校での活動の様子